

市議団ニュース

No 1823
2016年11月27日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町4-203
TEL 23-6023
FAX 24-1684

どうなるの？日ロ首脳会談？

12月15日、16日の両日、日ロの首脳会談が開かれます。当初の高揚感から次第に期待できない報道が相次ぎ「どうなるの？」「このままでは、根室はやっていけない。」「せめて漁業問題でも」などと切実な声が聞こえる今日この頃。「領土問題」について少し考えてみました。



今年5月のピザなし交流出発風景（共同通信社）

プーチン発言に怒りも・

新聞報道などによれば「1956年の日ソ共同宣言では2島(歯舞・色丹)がどのような根拠で、誰の主権下に置かれ、どのような条件で引き渡されたか」と述べたと言及されています。

この発言に元島民や市民の間からは、怒りや疑問も聞かれます。

サンフランシスコ条約締結後、日本政府も国後・択捉は、千島列島に含まれるという立場でした。

ですが、歯舞群島・色丹島は北海道に属する島々で千島列島ではありません。多くの市民の間でも、国後島・択捉島と歯舞群島・色丹島とは同じ「北方領土」の中でも違ったものとの認識はかなり定着しています。

そのプーチン発言は、何と云えばいいのでしょうか？

第2次世界大戦が終戦

となる1945年2月、アメリカのルーズベルト、イギリスのチャーチル、ソ連のスターリンがソ連のヤルタで戦後処理などの会談の中で、日本へのソ連軍の参戦問題の話し合いが行われました。この中で、スターリンはその参戦条件に「極東密約」とよばれる南樺太(サハリン)と千島列島をソ連が領有することをルーズベルトに約束させました。この「密約」は、チャーチル抜きで話し合わせられ、その「密約」が決まってから後でチャーチルが知らされたものでした。

しかし、歯舞群島・色丹島の2島は当然ですが、この「密約」にも含まれていないものです。

だから歯舞群島などにソ連軍が「侵略」してきた時、彼らは「ここは、千島か？」と島民に聞きながら上陸したとの証言があります。

「カイロ宣言」は領土不拡大

第2次世界大戦中の1

943年(この年にナチス・ドイツが大敗北に追い込まれる)にエジプトのカイロに中国の蔣介石、アメリカ・ルーズベルト、イギリス・チャーチルが会談を行い、対日本への方針や世界の戦後処理などをめぐる問題が話し合わせられ、中国へは当時日本が占領していた台湾などの中国への返還や連合国が「領土不拡大」の大原則を確認した意義ある会談でした。

引き渡し要求は、まさに「覇権主義・大国主義」そのものものでした。今回の一連のプーチン発言「クリール諸島(千島列島と歯舞諸島・色丹島)は第2次大戦の結果だ」や「ロシアも日本も平和条約を結びたがっているが、簡単ではない」などはスターリン時代の「大國主義」の立場と何ら変わらない内容としか思えない残念なものです。

切実な想い・領土問題の前進を

12月の両首脳会談で「一歩でも二歩でも前進して・・・」というのがすべての根室市民切実な願いです。しかし、領土問題をめぐる両国首脳の方針の「溝」は市民が願っているところより、より深い感じを受けると言えます。「せめて『島』の何らかの明い見通しを」という切実な市民の想いが通じるのか、その行方を文字通り固唾(かたす)を飲んで見つめています。